

「令和3年度第2回 松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会」議事録

□ 開催日時

令和4年3月29日（火） 9時30分から 12時00分

□ 開催場所

徴古館 2階多目的ホール（佐賀市松原二丁目5番22号）

□ 出席した者の氏名

【委員】

座長 牛島 英人 【一般社団法人佐賀市観光協会 会長】
佐野 安正 【佐嘉神社 宮司】
重松 恵梨子【映画館 シアター・シエマ 支配人】
白井 誠 【佐賀市 副市長】
田中 裕之 【佐賀県文化・スポーツ交流局 局長】
中尾 清一郎【佐賀鍋島伝承遺産顕彰会 代表世話人】
中尾 友香梨【国立大学法人佐賀大学 全学教育機構 教授】
鍋島 直晶 【公益財団法人鍋島報効会 理事長】
元村 直実 【佐賀県総務部 部長】

【事務局】

企画調整部 部長 大串 賢一
企画調整部副部長兼歴史・世界遺産課課長 村上 正
歴史・世界遺産課副課長兼歴史政策係長 野田 宣心
歴史・世界遺産課 歴史政策係 江藤 健二

1 開会

2 あいさつ

佐賀市企画調整部部長 大串 賢一

3 情報提供

(1)中央大通り再生会議、県都・佐賀市リーディング会議

●白井委員

佐賀市副市長の白井でございます。私からは、この松原公園周辺をとりまくまちづくりに関する昨今の市や県の取り組み状況について、紹介をしたいと思います。まず県都・佐賀市リーディング会議についてですが、佐賀駅には1日2万5千人乗降客がいて、年間佐賀駅に集まる人は1200万人いらっしゃるということでこれは九州各駅11番目になります

けれど、人口当たりの乗降客数でいくと博多駅に次いで2番目になります。ちなみにその3番目は大分、4番目小倉、鹿児島中央、久留米、長崎、熊本、佐世保、宮崎の順です。佐賀駅で人口当たりの乗降客数が多いというのは、この数字はコロナ前の2019年の数字です。海外からのお客様も増えましたけれど、住民の方々も通勤通学で使っているということでありまして、佐賀駅というのは観光客もそうですけど、市民の方々、あるいは市外から来られる方がたくさん使っているという駅になります。この佐賀駅を中心として、北に1.4キロにありますSAGA サンライズパークがございまして、これは県が大きく開発をさせていただいているのはご承知の通りだと思います。来年の春にはSAGA アリーナが開業しまして、再来年の秋には国スポというような形でステージが進んでおります。SAGA アリーナが出来ますと、スポーツだけでなく、文化、それからエンターテインメント色んな取り組み活動、色んなお客様がこれまでは佐賀駅を使って皆さん博多の方のほうに行っていたかもしれない。そういう流れが多かったかもしれない。これから先は博多の方から佐賀に来る流れが多少できるかというのが佐賀駅の玄関口として、そういう新しい動きというエリアが今、整備中でございます。駅を南の方に進みますと、中央大通りを通して佐賀城エリアに、これは歴史とか文化芸術の拠点エリアということで、こちらのほうも県の方が整備に力を入れてこられています。こうやって見ますと佐賀駅を中心として、南北に拠点となるエリアが整備されておりまして、佐賀市といたしましてはそれに応じるような形で北には三溝線の整備をしたり、南も中央大通りに関しましては、中央大通り再生会議を開くなどしながら取り組んでいるところです。計画そのものは令和の前、平成の時代から着実に取り組んできているところですが、今回、市長選がありまして坂井市長になられまして4ページ目をめくっていただいて、これは1月18日の市長記者会見で発表した内容でありまして、新しい県都づくりということで、佐賀県と佐賀市が一体となってこの県都・佐賀市を力強く磨いていくというようなことに取り組みたいということで、県都・佐賀市リーディング会議というものを立ち上げることにしました。ここに書いてありますように2月7日に第1回会議を開催いたしました。これは本当に県都、佐賀県の首都という意味での県都、佐賀市が力強く発展していくことでもって県全体を引っ張っていく。佐賀市にとりまして南北に走る中心軸ここにしっかりと注力することで、佐賀市全域にまたその恩恵を入れていきたいというようなこともありまして、県と佐賀市が一緒になってこれまで取り組んできた。次の5ページ目を開いてもらうと、北から南に向かって色々な事業を既に展開しております。色分けしながら見えていますけれども、パーク周辺エリアはSAGA サンライズパークの周辺整備であったり、MICEの誘致を一緒に対策をとっていきましようみたいな、そういう県市連携会議をすでに令和元年から始めています。佐賀駅周辺エリアに関しましては、三溝線の整備は市が行っています。これも市道三溝線再整備検討会と言いまして住民の方々に加えまして、県の方も参加をしていただく。駅周辺整備につきましては整備活用検討会議がありました。これも県が入っている。色を塗っている部分に関しましては既に県と市と一緒に参加してもらって会議はスタートしています。中央大通り周辺エリアは中央大通り再生会議というのがオレンジ色、紫色が松原公園周辺のまち

づくり懇話会ですけれど、これももちろん県と市一緒にやっています。黒色で塗っているのは単独で事業を行っているものですが、こういったものも含めて、トータルデザイン、歩く仕掛けづくりとか、色んなお互い共有している共通して持っているテーマを、こういうトータルの中で取り組んでいこうということで始めたということでもあります。第1回目と2回目の会議の間に始まった取り組みだと言えます。この中で松原公園というのは、佐賀駅からいきますと南の方、歴史とか文化とか芸術とかそういう拠点エリアに入るけれど、その松原公園の懇話会周辺が一番身近なこの会議といいますと、オレンジ色の中央大通り再生会議がありまして、こちらのほうについてご紹介したいと思います。

7ページになりますけれど、佐賀駅からこの松原公園周辺、お濠のところまでというのは中央大通りと言いますが、何でこの再生会議を始めたのかと言うと、これは先程紹介した佐賀駅を中心とした南北軸をしっかりとっていきたいという、考え方が一つあります。次の8ページ目は、相次ぐ地震の関係で避難路として指定された道路。中央大通りは避難路になっている。そこにビルが倒れてきて塞いでしまったら避難出来ない、色んな物資が運べないとありまして、避難路に関しましては耐震化義務が課されまして、特に記載してある昭和56年以前の建築物につきまして、しかも高さが10メートル以上のビルに関しては耐震化の義務付けがある。一番古いのは唐人町通りが一番古いですが、その隣の土橋から南の通りのエリアで耐震化では一番課題が出てきたところで、現在あの周辺はビルが取り壊されて更地になっています。9ページにありますのが情勢の変化、居心地がよく歩きたくなるウォークブル推進都市というものを県と市も目指していこうということで、歩きやすいまちづくりというのに取り組んでいこうとしたこと、こういったことが大きな背景としてあって、中央大通り再生会議が立ち上がりました。10ページ目に左側が佐賀駅で右に向かってお濠のほうまで通りの絵がイメージとして描かれていますけれど、佐賀銀行より北、ちょうど今から45年前ですが昭和51年に国体がありました。その時に佐賀駅が200メートル北にずれた。その結果、このエリアのまちづくりが始まりました。昭和51年以降のまち、一番ビルが新しく、一番ビルが密集しているここは、エリアAとなっていますけれどICT企業が集積されているというエリアです。次のエリアBですけど、江戸期から昭和初期にかけて造りこまれたまちで、古い柳があって間口が狭く奥が深い。エリアCは先ほど言いました昭和40年以降、元々道がなかったところに道が出来まして中央大通りという名前もここでつけられて以来57年経過しています。建物がそれなりに老朽化をしているということでどんどん開発が進もうとしている。特色3つ異なる特色のあるエリアですが、それぞれ活かしながらやっていこうということで、共通するのは次の11ページ。特に松原公園周辺に一番近いエリアC、一番注目されているところについて簡単にご紹介しますと、若い子供さんから年配の方までが色んな形でここでネットワークがとれる、そういうエリアにしていきたいと想いで考えられておりまして、そういうイメージでもってここは再開発をしていけたらいいなということを、この再生会議の中で結論づけております。期待される機能としましては、憩い・交流の場、新たな拠点などについて議論がされている。くしくも今ここはくすかぜ広場の整備でありますとか、お濠をまたいで南の方には市村記

念体育館の見直し等々につきましても動きがあって、色んな形でこのエリア C はこれからどんどん動いていくというエリアであります。この松原公園周辺に関してもこうやって懇話会をさせていただきまして、こういう動きにもしっかりと連動しながら新しいものについて取り組んでいけたらと思っているところでありまして、そういう動きが中央大通りのほうにも議論されたということでございます。12 ページ、13 ページはその進め方ですけども、この考え方、掛け算するような形でデジタル技術も取り入れて集まりやすい、集まりたくなるような場所にしたいということで考えていくこととなります。4 ページ目の場面に戻りますけれど、リーディング会議の中で描かれている絵の中でも、松原公園には今後注目をしていきたい。佐賀市としましても、色んな形で皆様方の議論に対して協力支援をしていきたいと思っているところでございまして、今後とも引き続きよろしくお願ひいたします。

●牛島座長 ありがとうございます。続きましてくすかぜ広場の整備状況につきまして御説明をお願いいたします。

(2)くすかぜ広場整備

●元村委員

私の方からくすかぜ広場の説明をさせていただきたいと思います。土木工事自体は明日で完了ということで、今後、中に厨房といったものが入ってきてオープンは 5 月頃になるのではないかというふうな形で今進めています。これまでうっそうとしていたくすかぜ広場、かなりオープンなスペースになってすっきりしたのではないかなと思います。パース図で言うと建物が 2 棟建っているけれど右手がカフェみたいな形になる予定です。左が展示スペース、貸出用のスペースにする予定になっております。ここを拠点に歩くきっかけ、歩く拠点にしてほしいなという思いがありますので、ここを拠点に楽しく歩く、情報発信をする、そういった場になっていけばいいなと思っています。NHK さんも 5 月から放送開始でございますので、連携したオープニングといったものを今、検討しているところでございます。くすかぜ広場が歩く拠点として、松原エリアを含めた人の流れ、賑わいづくりを一躍担えることができたらいいなというふうに考えております。ぜひオープンを楽しみにしていただければと思います。以上です。

(3)市村記念体育館利活用基本計画

●田中委員

市村記念体育館利活用について、現在は基本設計を進めておりまして、決定ではありませんけれどもこんなイメージでしていますよという頭で見てもらおうと助かります。内閣府の地方創生拠点整備交付金に採択され、5 年間かけて事業を進めていまして、今年度が 1 年目、来年度以降あと 4 年。4 年後にこれが完成するというスケジュール感でイメージされたらいいと思います。基本とするコンセプトとしましては幕末維新博覧会をやりましたが、その時メイン館として市村記念体育館を使わせていただきまして、そのコンセプトというか記憶というのを活かしながらそれをどうやって未来に繋げるかという形でここをリノベーション

出来ないかという方向で考えています。ここで大きな文字で書いてありますが「Crossing Creation」ということで、ここで若者たちを含めて新たな何かを見つけて、それぞれを掛け合わせて、そして未来に繋がるデザインをここで発想できるような空間にならないかというイメージで検討しています。「受け継ぐべきもの」ということで、幕末維新博覧会で多くの皆さんが訪れて佐賀県って何もないではなく、色んなものがある、佐賀県すごいねと再認識した。その思いを消すのではなくてどうやって未来に繋げていくかということと、58年前にリコーを創設された市村清氏が建物を寄附していただいたその想いとか、板倉準三さんが独特な形を込めて造られた建物に対する想いとか、その辺りを掛け合わせて何か出来ないのかというところで、50年後、100年後、150年後の社会に通じる力、デザイン力というものを学べる空間にならないかと考えております。

●座長

ありがとうございました。中央大通り再生会議、県都・佐賀市リーディング会議、くすかぜ広場整備、市村記念体育館利活用基本計画につきまして御説明いただきましたが、ここで皆様からのご質問御意見があればお聞きしたいと思いますがいかがでしょうか。挙手のうえマイクを使つての発言をお願いしたいと思います。

今回の懇話会でテーマとしております松原エリアに隣接する3つの計画と今の状況ということで、これから考えるにあたっての基本的な前提ということになってくると思っております。特になさそうですね。もしあれば途中でのご発言いただければと思います。以上で次第3の情報提供を終了したいと思います。

4 意見交換

(1)第1回懇話会の振り返りについて

●座長

続きまして意見交換に入りたいと思います。最初に、前回8月第1回の懇話会からの振り返りということで事務局をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

●事務局

皆さんおはようございます。佐賀市歴史・世界遺産課の野田と申します。お手元の資料4を御覧いただきたいと思います。松原公園周辺の将来像イメージということで第1回懇話会たくさんの御意見等いただきました中から抽出させていただいております。まず必要なこととしまして、

- ・この場所の歴史背景・伝統とその意義を理解すること
- ・佐賀の人にこの場所の良さを知ってもらうこと

そういったことが必要であろうという御意見が出ておりました。また大事にしたいものとして

- ・佐賀の魅力のひとつである豊かな歴史と文化、鍋島家の伝統と品格

- ・松原に佐嘉神社が創建された意味
- ・佐嘉神社の大楠など、緑豊かな樹々や松原川の水の流れ
 こういったものを大事にしていきたいという御意見が出ておりました。
 さらに松原公園周辺にあってほしいもの、期待するものといたしまして、
- ・歴史ある大事なエリアだということを市民が自慢できるように
- ・昭和 10 年ごろの一番格調高かったまちの中心部に近い形を目指したい
- ・城内、くすかぜ広場、中央大通りからの人の流れあるいは賑わいをつくりながら神社等へも参拝をしていただく。多くの人に歩いてもらえるまちづくりをしていきたい。
- ・たくさんの人が集う場所、学びの場、心の拠り所、経済活動の場所
 といった意見もありました。
- ・思い出の場所となるように大切なランドマークとして心に残るように
- ・土地の個性や文化が肌で感じられ、若者たちが訪れやすく、愛着を覚えるような場所にした

という御意見がありました。

- ・地域全体を“大名庭園”の中に落とし込んではどうか

という御意見も出されたところです。松原公園周辺の将来像のイメージとして第 1 回目の懇話会ではこのような御意見が出たというふうに思っています。以上です。

●牛島座長

ありがとうございました。今の振り返りを元に後半は、「今後の松原公園の整備について」ということで皆様と意見交換を始めていきたいと思えます。

最初に事務局にお伺いしたいのですが、今回テーマで「松原公園」ということに絞り込まれた理由について説明をお願いしたいと思いますますがよろしいですか。

●事務局

この懇話会の最終的な目的としましては、ここ徴古館、佐嘉神社、あるいは松原神社、それから松原神社参道である新馬場通り、こういった松原エリア全体の将来像とりまとめというのを目的としておりますが、まずはエリアの中核として位置づけられる松原公園、この徴古館の周辺の今後の整備について意見交換をお願いしたいと考えたところです。松原公園、徴古館周辺の整備をひとつ短期的な形として具体化をしたうえで、エリア全体の中長期のイメージ、将来像という懇話会の目的を膨らませていきたいと考えた次第です。

●牛島座長

ありがとうございました。松原公園ということで今説明がありましたが、私はこの懇話会の中であえて「松原エリア」ということで全体的なところと、この「松原公園」というところを区別する意味で使っているのですが、この松原公園の範囲がどういうふうになっているかという捉えをどう考えればよいか、おそらく資料 5 あたりに絡んでくるかなと思っておりますが、事務局にそのあたりの説明をお願いしたいと思います。

●事務局

座長がおっしゃる通り資料 5 に少しお示しをしております。右側の下のほうになります

けれども現在(案)をご覧くださいければと思います。松原公園整備につきましては平成 21、22 年くらいになりますけれども、第 1 期整備としまして、赤線で囲んでおりますエリア、徴古館のエントランス整備に取り組んでおります。この徴古館周辺を中心としまして、黄色い枠内、ここには将来整備構想エリアと示しておりますけれども、徴古館東側の鍋島報効会の所有地、それから現在参拝者の駐車場として整備されております佐嘉神社の所有地の北側半分、それから徴古館北側にあります佐賀県の県有地、こういったエリアを今回「松原公園」「徴古館周辺」として対象に議論をいただきたいと考えております。以上です。

●牛島座長

ありがとうございました。ただいま事務局のほうから絞り込んだ理由、そして「松原公園」の定義といいますかそのあたりの認識を共通にするために説明してもらったところです。委員の皆さんお分かりいただけましたでしょうか。よろしいでしょうか。

●田中委員

前回参加していませんでしたので経過がよくわかっていないと思いますが、佐賀市の考えている計画というのは、ここを芝生広場として公園として整備するという方向でいいのでしょうか。その方向性はもう固まっているのでしょうか。

●牛島座長

これは事務局からが良いと思いますがいかがですか。

●事務局

資料 5 の左側には 1 期整備をした当時のものとして芝生広場的な部分が示されておりましたけれども、今回懇話会を立ち上げた理由の一つにもなりますが、ここを一旦ゼロにして、芝生広場等々を含める形になるかもしれませんが、そこは皆様の御意見とか市民・県民の意向を含めながらこの懇話会をスタートとして進めていきたい検討していきたいという思いでいるところです。

●田中委員

芝生広場というのはこだわらなくて新しい発想を詰め込んでいいという感じですか。

●白井委員

これは平成 20 年、10 年以上前に議論されたときの考え方で、これを全然意識せずに尚且つそれぞれ県所有もありますけれど、県の考えもありますでしょうし、まだまだ住宅やお店があつたりします。色んな課題もありますのでひとつひとつをしっかりと見ていきながらも、今できることが、例えばこの辺の中でもこの部分であればこんなふうに見えるかな、こんなことをしたいなという御意見等が出てくれば、そこを当然やっていきたい。資料 4 に出てきた長期的な将来イメージというのは色んなイメージが出ていたけれど、全部相反するようなものではなく、全部将来的にはこんなふうになったほうがいいねと、表現しようとすればできるもので、長期的な将来イメージに大分近いものかなと。逆に言うとこれを、このようなイメージを将来に見ながらも、今できること、当面できること、今の周辺整備が色々進んでいる中で松原公園でもできることというのがあればそれをまず、やっていこうと佐賀市としては思っているけれども、いずれにしても佐賀市が直接土地を所有しているわ

けではありませんので、直接お持ちの皆様様の御意見もいただきながら佐賀市としてできることはないかと考えていきたいと思っているということです。

●田中委員

城内公園全体でかなり芝生の面積が広がってきている。どこもこも芝生にする必要はないかなと思っていまして、この辺りは多分歴史ですよ。銅像園があったり図書館があったりした場所。直正公の銅像を造るときもあの辺りに造ろうという議論があった場所ですから、色んな歴史の重みとか想いもあるでしょうから、なるべく歴史を感じられる場も含めて議論できないかと思って先程質問しましたけども。ただ、そんなに広くはないですね。広くはないので何でもかんでもできないでしょうから、何を持ってくると人の動きがどう変わっていくのかという議論をしなければいけない気がします。

●牛島座長

ありがとうございました。貴重な意見だと思います。第1回的时候にはお話しをしていますが、例えば芝生にするだとかこのようにするという前提ありきで話をしておりません。

松原エリアの歴史的な意味についてということで前回の懇話会では報効会の富田さんからお話しをさせていただいたと承知しています。その部分で資料4に参りますが、今回「必要なこと」ということで皆さんの意見が出てきました。この場所というところ、歴史背景・伝統とその意義を理解するというを今一度抑えたほうがいいと感じているところですので、最初に認識を共有するために佐嘉神社の歴史等につきまして佐野宮司からお話しをしていただきたいと思っておりますがよろしいですか。

●佐野委員

今の話を皆様方の御意見を聞いておりますと、ここで佐嘉神社昭和8年御創建でという話をもってくと前に向かって皆様が進もうとされているのを、我々が止めてしまうのではなかろうかと懸念するところで、あまり佐嘉神社はこういうお宮さんでございましてということは考えずにお話ししたいと思っております。やはりこれから歴史は歴史として大切なものですが、しかしあくまでも歴史であると。やはり今からつながっていく未来に向けて準備していくかということも私たちも佐嘉神社も新しく変わって、皆様方と一緒に進んでいきたいと考えておりますので、そのような形でお聞きいただければと思います。本日は、佐嘉神社がほかの神社と何が特別なのか、我々がいつも御奉仕をさせていただいているうえで、どういうことを誇りに持ちながら、どういうことを大切に考えて御奉仕をしているかというところを何点かお話しをさせていただければと思います。

まず一つは、一番大事なこととして、佐嘉神社は昭和天皇の御命令によって創られた神社であるということです。こちらは御祭神の鍋島直正公、松原神社の南殿という今はございませんけれどそちらに明治4年にお祀りをされております。そこにお祀りをされておりました直正公を昭和天皇が直々に「別格官幣社」佐嘉神社としてご創建をなさいと命令をいただきましてできましたのが佐嘉神社であるという、そこが特別であると我々は常に誇りに思って御奉仕をさせていただいているところです。別格官幣社と申しますのは皆様ご存じだと思いますけれども、人間神をお祀りしている神社です。全国で28社、神社の中でも28

社が別格官幣社という社格をいただいています。これは戦前の社格でございますけれども第 1 号は神戸市にあります湊川神社、楠木正成公をお祀りしているのが一番最初に別格官幣社になっていらっしゃるということです。九州では熊本の菊池神社、鹿児島島の照国神社こちらのほうが有名かと思えます。28 社ございますけれど、ほとんどが県社とか郷社というような社格をいただいておりますのが別格官幣社に御昇格をされた神社ですけれども、2 社だけ最初から別格官幣社として創られたお社がございます。1 社は福井県にあります福井神社。それとこの佐嘉神社。全国に 2 社だけ最初から別格官幣社として御創建された神社。これが私たちにとって重要なところ、誇りに思っているところです。そしてもう 1 点が今申し上げました別格官幣社として御創建されました 2 社のうち福井神社と申しますのは、昭和 18 年に御創建になっておりますけれども、昭和 20 年に空襲によりまして戦火で焼失しております。総檜造りのお社だったのがすべて焼けてしましまして昭和 32 年に再建されておりますけれども、これは当時福井大学の工学部の先生の設計によりまして出来上がっておりますけれど全てコンクリートになってしまった。これは時代的なものだと思いますけれども、デザインも屋根がフラットになっているという形で、ぱっと見ると神社と思えないような、当時の面影も全く残していないお社に今現在なっているようです。それに比べまして佐嘉神社は昭和 8 年御創建から当時の宮内庁の技師が設計されたままの形が今現在も残っております。要するに、新しく別格官幣社 2 社が創られましたけれども、このうち今も現在、宮内庁の設計により形が残っているのは佐嘉神社だけというのも我々は誇りに思いながら、これを伝えて守っていかなければいけないという思いで毎日御奉仕をさせていただいているところでございます。

●牛島座長

佐野宮司ありがとうございます。全国で 2 社のみ、しかも戦火を乗り越えて今に至るというのが佐嘉神社だけということは代わるものがない価値であると感じたところです。

そこで前回御説明をしていただきましたが、当然のことながらこの徴古館、報効会のほうにも積み重ねてきて今に至ると歴史があると思っておりますので、その辺りにつきまして鍋島委員あるいは富田さんにお話しいただければと思います。よろしいでしょうか。

●鍋島委員

このあと、資料 6 で学芸員に、説明させますけれど、聞いていただきながら頭の中で思っていたことがありまして、価値観の変遷、くしくも佐嘉神社があと 10 年で 100 年になるけれど、昭和の頭からの 100 年の間に我々の価値観がこんなにも変わったのかなと見返しているけれど、鍋島報効会や徴古館、神社ができたころから今まで、3 つくらい分かれるのではないかなと。昔の権威を非常にひいて頑張っていた時代が昭和の頭くらいまであって、そのあと戦争の時代があって大きく変わっていった。そのあと高度成長期があって最終的にはバブルがおきて平成の時代に大きく変わっていった。今、わたくしも非常に戸惑っているところもあるけれど、今回の懇話会で事務方の話の中で、今回のこういうエリアの開発の話において地主さんの御意見はいかがですか聞かれるが、確かに神社であれ県であれ、地主さんという見方もある。一方で純粋に宗教でない部分の神社の立場立ち位置もある。

純粹に民間とはいえ、一法人ではない公益財団法人とか博物館の立ち位置であるとか、行政としての県の立ち位置だとか、それぞれにミッションがあると思う。一定の使命というのを感じてやっているのかなと、その辺りのコンセンサスを皆でしっかり持っていくことはすごく大事なのではないかなと思います。また、佐嘉神社創建のときの記念の写真帳というのをスクリーンで見えていただけるようにデジタル化して参りましたので、それを見ていただくと当時の盛り上がりを見ることができるのではと思います。先ほど田中局長の話の中に50年、100年、150年後に残るものというのは、どうやってつくられているのかなというところの考えを共有していただけたらありがたい。私自身は文化、歴史と言われても中尾さんの横で文化について語るのは、歴史と文化の無免許運転みたいな状態で30年関わっていますけれど、一定の使命感は、佐嘉神社とも理解を共有していきながら、どうあるべきなのかというものを、価値観が変わってここまできた時代の次を向いて、皆さんと一緒に考えていける環境が整ってきているというのが非常にありがたい、ここまで残ってきて良かったと感じている。逆に佐野宮司も私も最近共感しあっているけれど、昔は「権威型」にするべき時代もあったかもしれない。それが大事だった、それがなくてはいけない時代もあったと思うし、そのほうが良かった時代もあったかもしれない。今そんなことをすると誰も寄ってきてくれなくなってしまう。逆にここまで残ってしまったもの、引き継いだものをどうすればいいんだという大きな負担を抱えて、これを負の遺産にしないために、これを引き継いでしまった責任の大きさにおののいている部分を、うちの学芸員が3人で佐賀藩鍋島家に残ったものを3人で責任もつてうまくやっていくんだよと、僕には無理だからねと。これは大変なことだと思う。この人たちが火の始末をして、間違えたら思い出がなくなってしまう。これは神社も同じだと思うけど。そういうものを引き継いできている。皆さんの中でそれがどう引き継がれていくのかというのは、やはり町の問題だと思うし地域の問題だと思う。

●鍋島報効会 富田事務局長

鍋島報効会の富田と申します。前回もお時間をいただきまして松原の歴史についてご紹介を情報提供させていただいたのですが、今日は鍋島委員からありました資料6のところ少し前回とは違って佐賀県、佐賀市と鍋島家との関係のところに絞って列挙させていただいております。今、3つほどの時代による価値観の変遷というようなことを鍋島委員のほうからございましたけど、それを事象ごとになどってご覧いただければと思います。ここには①から⑤までグレーの網掛けをしているような時代区分をしておりますが、①といいますが地域連携による歴史顕彰の時代というふうにまとめております。この年表のスタートは大正2年の直正公の銅像を県内外の皆様にご覧に建立いただいたところからスタートしておりますが、それに対して右側半分が鍋島家の動きでございまして、直大公が「佐賀図書館」を造って佐賀県民の皆様にご覧に造っていただいた。同じく大正9年には「鍋島直正公傳」というものを鍋島家が編纂いたしましてそれを出版いたしました。直正公が亡くなっておよそ40年、50年経ったころの出来事でございます。銅像という形や鍋島直正公傳という記念的なものとして残そうという動きがあった時代です。その翌年ですが、直正公を直接知る直大公がお亡くなりになるということで、一つの時代の区切りを迎えます。跡を継いだ直映公は、

直正公とは直接お会いになったことが一度もないお孫さんでございます。その方が御当主になったのが大正 10 年です。直映公になりますと大正 12 年のところにありますように、直正公が造園された神野公園を鍋島家から佐賀市にまるごと寄附されたり、弘道館記念碑の建設の揮毫をされたり、徴古館の創建というようなことと、それまで鍋島家直営だった図書館を佐賀県に昭和 4 年に移管されました。一方で、東京のほうに目を移しますと、昭和 8 年に渋谷区の松濤公園を鍋島家から東京市に寄附されておりまして、こういった形で鍋島家の資産であった公園、別荘、図書館といったものを市などに寄附をする、そういったことで資産を地元自治体で活用していただく方向に変化していくのが、この直映公の一つの時代のように見えてまいります。ただ、②の戦中のところで徴古館を閉館いたしまして、直映公も戦時中にお亡くなりになり 13 代直泰様がそのあと継いでいかれます。戦後、③のところですが、徴古館自体は閉館したままだったのですが、徴古館の建物に、昭和 25 年佐賀県文化館が県によって開館されます。その後昭和 38 年に県立図書館が現在の城内に建築をされ、明治改元 100 年事業として昭和 45 年に県立博物館ができて、徴古館での文化館も役割を終えるという意味で、鍋島家が創設いたしました佐賀図書館と徴古館が昭和 30 年代 40 年代まで 40 年 50 年間は役割を持っていたものが、城内に場所も松原から移転をして、県のほうでの運営に切り替わっていくのがこの 30 年代から 40 年代という時代。そういった新しい動き、規模の大きな文化施設の創設にあたって、鍋島家がどんな動きをしたかが対応する右側でございます。県立図書館新築にあたりましては約 3 万点の文書を直泰様から寄託をされ、県立博物館開館にあたりましては、美術工芸品の類の寄託をされて、史料を新しい県の施設で使っていただくという連携の在り方があった時代。続いて④の平成 10 年代になりますと徴古館が独自で展示活動を再開しまして、鍋島家の伝来資料を御紹介させていただく形になりました。翌年に登録博物館となり鍋島家から伝来品を財団に寄附いただいたのも平成 12 年ということで、新たな動きが出てまいります。鍋島家の雛祭りを最初に開催いたしましたのも平成 12 年の翌年から佐賀市さんと一緒に佐賀城下ひなまつりとして拡大して地域的なイベントとして今に至ります、という形です。こうやって平成 10 年代の中でも本丸歴史館が平成 16 年にオープンされ、同じ年に佐賀市さんの佐野常民記念館がオープンされます。そこには徴古館の歴史史料の出品をさせていただくという形の連携を現在に至るまで続けさせていただいております。そういった中で⑤の平成 20 年以降ですが、先ほど御紹介いただきましたように、佐賀市による松原公園（徴古館の西側の整備）を中心として平成 23 年に開設をしていただき、それに先立ち 3 年前に佐賀市と鍋島報効会ではまちづくりの基本協定を結ばせていただきました。市とのまちづくりの面での連携というのが新たにスタートしたのが 20 年代。平成 29 年に直正公の銅像を建てていただいて、平成 30 年には維新博が開催され、佐賀県を中心として各市町、徴古館もその一会場として民間も含めて協働で連携を高めていった大きな出来事であったかと思えます。令和元年には鍋島伝承遺産顕彰会を発足していただいて、現在に至るまで鍋島報効会を様々な意味でお支えいただいております、まちづくり懇話会もまた、佐賀市さんが主催なさっているということで、鍋島家が資産を地元へ寄附したり、伝来の史料を寄託する形で活用して

いただくという在り方から、同じテーブルで歴史を活かしてどう未来を考えていくかという議論をさせていただくような時代にきているのかなというところを紹介させていただきました。以上です。

●牛島座長

ありがとうございました。富田さんからもありましたが、歴史をしっかりと理解して未来を考えていくということで、まさに懇話会で指摘されていることを鍋島委員、富田さんに御説明いただきました。開始から1時間経っております。5分ほどの休憩を挟みまして、今後の松原公園の整備についてということで議論を始めたいと思います。

(2)今後の「松原公園」の整備について

●牛島座長

松原公園、少し狭いところに絞ったところで意見交換を始めたいと考えております。まずは松原公園、徴古館周辺に求めたいもの、大事にしたいもの、機能的な部分あるいはこういうイメージを何だかの見える化をしたいとか、そういった部分で皆さんの御意見をいただきたいと思います。最初に白井委員お願いいたします。

●白井委員

資料6、本当にありがとうございます。よく作成されているなと思うけれど、この中で行政と鍋島報効会の方々が色々やり始めたのが④あたりだと思う。特に⑤も平成22年、佐賀市が借地公園という手法で鍋島報効会の土地を借りて公園として整備しましたが、これはすごく画期的だったなと思います。市の土地ではなかったけれどお借りして都市公園として整備したということでありまして、そういう手法であればこれからも可能性としてはあるのかなと思いました。皆様方のお知恵を色々お借りしながら今後ともやっていくのかと私も期待しているところです。資料5の右側の図で黄土色に塗られているところですが、ここは佐嘉神社と鍋島報効会、佐賀県の土地があるわけですが、特に佐嘉神社は、これから100周年を迎えるなど、色んなことがあるので、そういったイベントそのものが観光財産で、県・市ともそういったところに期待しています。今日は客観的に御意見をいただければ佐賀市としても先に進んだ考え方ができるのではと思っております、そういう意味でも御意見をいただければと思っております。

●牛島座長

ありがとうございました。

●中尾清一郎委員

考えたことがあって、県や佐賀市がお考えになっている佐賀駅・サンライズパークを中心とした軸線は南北のものですよね。ただ東西の視点がやや欠けていますよね。横軸が欠けているので、松原公園は横軸を東に引っ張っていく結節点のようなものになり得ると思うので、その視点をちょっと盛り込んでいただきたいと思うのと、今朝も会場に来るときに自宅が近いので歩いてきたけれど、この松原公園の北側の通りは裏通り感がある。車も西へ向かって一方通行であるので抜け道的な役割になっている。これはまずいと思う。さっき白井

委員がおっしゃったように、今あえて土地を未定という形で考えているのであれば、貫通道路（国道 264 号）と松原川沿いを結ぶ動線をもう少し考えていただけたらいいと思う。徴古館で格調高い鍋島家の事績を見て、佐嘉神社でお参りをして飲食、歓楽街のほうにゆるやかに抜けていくような回遊性のある動線をお考えいただくのに、この松原川と貫通道路の間のこの土地は非常に有効な機能を本来持つのではないかと思います。また、いわゆる松原マーケットですけれども、県庁所在地の真ん中に戦後のドヤ街が残っているわけですが、ある意味これも面白くて、今の配置ではどうしようもないですけど、例えば回遊ルートの一 corner に昭和レトロ的な駄菓子屋とか呑み屋とかがあってもいいのかなど。割と神社の周りは聖なるものと俗なるものが同居しているものなので、そういったものをちょっと残しながらこのエリアの東西南北の回遊性を考えられたらいいのかなと今までの議論を聞いて思いました。

●牛島座長

ありがとうございました。南北のみならず東西、横軸という視点も必要ではないかというところ、それと回遊性のある動線といった視点、この辺りは、前回の会議の中で皆様から多く寄せられた意見「人が集まる」というところ、人が集まるということは当然人が動いてくるといことだと思いますから、その辺りへの御意見だったと思います。そういったことに関連しまして松原川沿いで活動されている重松さん、何かその辺の関連で何かあればお願いしたいのですがいかがですか。

●重松委員

今の中尾委員の話聞きながら思ったのですが、松原マーケットのような場所は県内ここだけかなと思っていて、例えば、お正月とか佐嘉神社に初詣に行ったときに鶴乃堂さんに行列ができていたりとか、シアターシエマに県外からお客様が来たときに「おいしいもの何かありますか」と聞かれたら「鶴乃堂さんの肉まんがおいしいですよ」と案内したりする。芝生広場の構想も何もないきれいなフラットな状態にするというのも安心というか、裏通り感がなくて明るくて誰でも来やすい場所となるかもしれないですけど、逆にそれももったいないかなと話聞きながら思ったところです。資料 6 の御説明を聞いて本当に初めて知ることばかりで、佐賀に住んで 15 年目になるけれど、歴史を知らずに手を合わせてお参りしていたのかと思うととても恥ずかしく思った次第ですが、例えば市民の皆さんが佐野宮司さんからお話いただいたようなことを説明できるようになったらすごく素敵だなと。佐賀で育った子供たちが佐賀の歴史について身近に感じて、その子供たちがずっと佐賀に残る子たちもいると思うのですが、外に出た子たちが自分のふるさとの自慢ができるような、子供のころにここで過ごした思い出が自分の蓄積になって、外に出たときに話ができるようなきっかけになるような場所であるといいなと。その子供たちが大人になって帰ってくる場所として心の拠り所になると思うので、そういった意味で新しいことが大切というのはわかるけれど、歴史というのは、一人ひとりの誇りのような部分もあると思うので自分のふるさとはこんな歴史がありますというのを色んな人に話ができるような、具体的なアイデアはないですけどそういう場所になるといいなと思いました。

●牛島座長

ありがとうございます。子供たちが身近に感じる自分の誇りというか自慢というところでそういう部分も含めての身近な場所・心の拠り所になればという意見だったと思います。

鍋島委員さん、今の流れも含めて前回も話をいただいたのですが、どうやったら人が集まってくる、そして先ほど動線ということも出てきたのですが、これまでの経緯も含めてお感じになっていることをお話しいただければと思います。

●鍋島委員

どうやってと聞かれると一番困る。私のところの状況と申しますか、たまたま自分の時代まで今でいうところの文化財がたくさんあるけれど残ってしまった。どうしよう。そういうものを残しておくのにはどうしたらいいのかなというところにたまたま財団が入ってきて、たまたま博物館法というものがあって博物館にして、税金の問題を解決して散逸しないようにして、ある日ひな人形を並べたらひな祭りになってしまって、そしたら佐賀市の観光課の人と話をするようになって。そうこうしているうちにまちづくりの人たちと話しをするようになって、先ほど申し上げましたけど文化歴史について無免許運転なので困ったなど。大義名分を立てていけないといけないという部分で関わってまいりましたら、今度はこういうものを地域のためにどう活かしていけないのかというのを考えなければいけなくなって。その辺りでひな祭りの渦中に多かったが、他府県の方もおいでになられる。善し悪しは別として、そういうときは格好つけたくなる。徴古館の周りをきれいにしたいし、徴古館周辺をなんとか整備できないかと考えたが、なかなか私共だけで手におえる話ではないというところで佐賀市との関係が先程白井副市長から説明があったような関係を皆で編み出していくというか。その編み出している部分が今はまだ作業の途中なのかな。そういうところを起点にして、今度は皆さんのまちのまちづくりという中に地域の方や神社や、これからは国体もありますし、色んなことがある中で、今回初めてのケースだと思っている。元佐賀図書館の跡地を所管されている県の皆さんともエリアとして考え、私は何でこんなことになったのだろう、面白いものだなと、ある意味成るべくして成ってきたのかもしれないけど、皆さんと一緒に考えられるようになったということを有難く思っております。逆にどうしたらいいですかという質問、何かアイデアは？ということがあったとすれば、逆に言えばそれが無いから皆さんにお集まりいただいているのですと。何とか皆さんの知恵でいいもの・いいまちにしていくための糧としていただければ私共も有難いというのが正直なところです。

●牛島座長

ありがとうございます。私が理解しているところでは、報効会のほうで特に次世代、これからの若い方々に理解してもらい、あるいは取り組んでもらうということでの活動をこの数年取り組んでいらっしゃって、今後も予定されていると聞いております。おそらくそういった部分も含めての、これからの松原公園をどう形づくっていくのかということに繋がるのではないかなという気がしておりますけれども、ここで少し離れたところにいらっしゃる中尾先生。前は大名庭園という話もいただいて、人が集う、また新しい動きを作り出す

ということでの御意見をいただいたところでありますけれど、いかがですか。

●中尾友香梨委員

本日は会場に駆けつけることができず申し訳ございません。今日は松原公園をどういうふうに整備していくかというのがテーマというのは理解しておりますが、それで間違いないでしょうか。松原公園というのは資料5の黄色の線で囲まれている部分でしょうか。はっきり聞こえなかったところがあったので確認をさせていただければと思うのですが。

●牛島座長

その理解で間違いありません。

●中尾友香梨委員

ありがとうございます。多くの方が発言されているように、ここは歴史のかおりが漂うエリアであって、歴史を大事にするまちづくりが重要なのではないかなと考えております。ただ、先ほど佐野宮司の話があったと思いますが、歴史を完全に現代社会と切り離して考えるのは難しいことで歴史遺産を受け継いでいくためには、やはり現実の生活や社会活動、経済活動などと緊密にしながら受け継いでいくのではないかなと思います。完全に歴史だけを重視したエリアは難しいのではないかと。そうすると前回とかぶりますが庭園、公園を庭園に落とし込むのも一つの方法かと思えます。前回も話たように大名庭園というのは非常に現代の公園とかテーマパークとか似たような性質がありまして、庭園と言いながらその中に生活があり、色々な機能が内蔵されています。これを参考にすることも一つの方法ではないかなと考えております。これが1点目。申し上げたいのが歴史と現実の生活、社会活動、経済活動などを結び付けながら松原公園の整備を担っていく視点が必要になっていくのではというのが一つ。

もう一つ提案をさせていただきたいのですが、これからは若い人たちが集まりやすい、若い人たちが魅力を感じるエリアにするということが必要だと思います。特に佐賀大学が毎年県外から多くの若者が入学してきます。観光で訪れる若者の心をつかむのもすごく重要なことですが、4年間佐賀で生活をする大学生の人たちを魅了するのも必要だと思います。私は歴史文化という事業を持たせていただいております。せっかく4年間佐賀で過ごされるのであれば、佐賀の文化遺産も見てもらいたいということで必ず文化遺産のある現地に自分で調査に行ってそこで調査を行って撮影をしてプレゼンテーションを行うということを授業でしています。そうすると県外から来た学生たちはほとんどが驚きます。授業は大体2年生、3年生ですけれども、すでに佐賀で数年暮らしていても佐賀にこういう文化財があるとか、こんなに魅力的なまちなのかということを実際に驚きながら学んでいる。県外から来た学生が驚くのは当然と言えば当然ですが、地元の学生たちもこういう場所があったとは全然気が付かなかったとか、初めて知ったとかそういう声結構あります。つまり、若い人たちにはインパクトがあまり強くない、既に文化遺産はたくさんありますが、若い人たちにそれを訴えかける力が弱いのかなと、日々の大学の授業で実感しているところです。せっかく松原公園をこれから整備していくのであれば、特に大学生たちに訴えかける力があるという魅力的な公園づくりをと思います。佐賀大学を卒業した学生は東京と

かに就職していく学生が多い。どうしてもそうなると思うけれど、できれば地元で就職してほしい。人材を引き留めるとするのは市にとっても県にとっても大事なことだと思います。出来れば学生が4年間過ごしている間に、佐賀はこんなにいいところだと実感してもらうのは重要なことだと思います。いったん大都会に憧れて出て行った後でも、佐賀で過ごしたことを思い出して、いいまちだったなと思って戻ってこられる拠点に松原公園周辺がなればいいなと思っております。

●牛島座長

ありがとうございました。中尾先生のほうからは歴史を大切にと、このエリアの特徴だと言えると思いますが、一方で現実と調和したというか現実と結びついたものが大事ということと、もう一つは若い人が感じる価値観を理解してというところが一つの視点であろうかと思ったところです。そういった部分で、先ほど市村記念体育館の計画の進捗ということの説明いただきましたが隣り合わせたエリアで、この松原エリア・松原公園にこんなふうにあったらいいのではないかと、先ほどの説明で繋げるとか掛け合わせるとかいうのがポイントであると言われていたと思うのですが、田中委員さん何かお感じになったこと、御意見があればと思います。

●田中委員

中尾委員さんの説明を聞いていてどうするのだろうと、具体的なイメージが湧かなかったですが、大学生がここで庭園とか言われましたけれど公園整備とか庭園とか、若者たちがここで心震わせて佐賀的なものとは何があるだろうと聞いていました。なかなか具体的なイメージが湧きにくいですね。私が今議論している市村記念体育館はまさに空間の中で何かの仕掛けをして、何がしかの感動を与えるみたいなことからきっかけを与えていって、それを次につなげていくというのは色んな仕掛けができるけれど、ここは何か建物を造るのではなくてフラットな公園で、庭園で若者たちに感動を与えるというのは具体的なイメージが湧きにくいですね。かといって、歴史、松原とか弘道館とか、歴史にあまりこだわるとどうなのかなと思ったりして。中尾清一郎委員が言われている横の通り、松原川沿いをどうやって歩かせるのかとか、南北を使って色んなことができると思う。学生がここで何を考えるのかというのが難しいですね。重松さんが言ったみたいに松原マーケットの鶴乃堂さんとか餃子屋さん、佐賀らしい食というのは意見が出るかもしれませんね。屋台村みたいなものができるかもしれません。それ以外で何があるのかなとちょっと議論しなければいけないと思いました。

●牛島座長

ありがとうございました。前提として、公園だとかオープンエアと全く何もないとしてしまうと今のような形になるかもしれませんが、中尾先生の話で若い人特に大学生といった人たちという切り口で考えてみれば、その場での出会いとか徴古館さんが大学のほうからも向かい入れて活動されていると思うのですが、そういうきっかけづくり、何か学びの場だとかを同時に、食べに行くだとか色んなものを見るだとか、そういうものを含めた形で今後の松原公園の形づくりというのも考えられなくはないだろうかと思っているところです

が、そういう意味で重松さんよろしかったら。

●重松委員

お話しを聞きながら思ったのですが、市村記念体育館では何か仕掛けを作られるということで、多分それと同じことをこの場所でする必要はないのかなと思っています。若い人に来てもらう、と色んなところで言われるけれど、私もだんだん若者ではなくなって、今の若い人たちがどういう感覚かをキャッチするのはものすごく難しく、一周回って「えっ。こんなものが」というようなものに若い人は新鮮さを感じてインスタグラムをあげたりだとか、昭和レトロというものが逆に彼らが新鮮に感じるというような感覚があるので、若い人に来てもらうために無理やり仕掛けを作ってこの場所に何か目新しいものを創るというのはちょっと違うのかなと。既にあるので、佐嘉神社があって、徴古館があって、周りに魅力的なお店が既にたくさんあるので、そういったものが生きてくるような、ものも造るのか造らないのか、本当に新しいものかと思ってしまうと、すごく違和感があるのかなというのをイメージしながら思ったので、既にあるものに目を向けてどうしていくのかというのを考えたほうがいいのかと思いました。

●牛島座長

ありがとうございます。既にあるものと言えば当然、佐嘉神社さんと徴古館さんということで出てくると思うのですがいかがですか。

●佐野委員

大学の中尾先生の話をお伺いしまして、私のイメージはおそらく庭園ということですから、鹿児島島の仙巖園をイメージされているのかなと思ったのですが。あそこも島津ですから島津の庭園ということで、ただ広さ的にはあまりにもミニチュア版すぎるというのが一つ。もしそういうことで考えるのであれば、徴古館、佐嘉神社、松原神社、その先の松原神社の境内のところまで大きく見て、庭園ということで考えるのであればしていかなければいけないのでは。さらに新馬場通りを門前町として、というところまで含めてかなり大きな構想で考えないと規模が小さすぎるかなというイメージは持ちました。ただ今言いましたように松原神社というのは実は、昭和35年に佐嘉神社と運営を一本化している。もちろん今でも法人格は佐嘉神社・松原神社別々にあるけれど、本当は合併をしたらどうかという話があったのですが、法人格が別々だと色々な問題がありましてそれができないということで運営だけを一本化するということを言われたのが、私が聞いている限りでは商工会議所と観光協会さん等々がそういう形をしてもらえないだろうかと。なぜかというと、松原神社の境内というのは大きく広場のような形になっていますけれど、今みたいに大きく広場をつくってもらって青少年の情操の場として提供してもらいたいというような申し出があったそうです。それを受けまして神社のほうが、松原神社はお金がなかったというのもあったのでしょうけれど、荒廃していたというところで運営を一本化して、松原神社自体を大きく東側に後ろ側にずらしまして、昭和38年の御創建の30年式年祭の記念事業という形で一旦松原神社を全部解体しまして、そして今の場所に大きくずらして新しく、元々は中殿・北殿・南殿と3つのお社があったのを今度は1殿で2座お祀りするという今の松原神社の形に改

築して今のところに建っている。今の松原神社が経っている場所というのは厳密に言うと佐嘉神社の境内地になる。大きくずらすことによって広場を確保して、それを皆様方に使っていただけるようにという形で提供したと聞いております。そういうのを含めると、今回の話も佐嘉神社・松原神社の大きな境内とかその辺りまで含めたところで色々考えていく必要になっていくのかなと考えたところではございました。

●牛島座長

ありがとうございます。今の話を聞いて中尾委員さん。

●中尾委員

初耳です。

●牛島座長

ご存じなかったですか。その当時の商工会議所、観光協会とかそういった関連で活動されたというのできごとご存知だと思いました。

●中尾委員

その当時だと宮田市長、会議所の会長は土井頭取、観光協会は僕の祖父だったと思いますが、それくらいのことをよくやれましたよね。我々のほうがむしろ狭い制約の中で、隙間をどうやって埋めようかと考えているので、我々のほうがスケール小さくないですか。腹が座っていないですよ。もっと思い切っているかもしれないですね。

●白井副市長

今みたいな話というのはまさに中長期的なイメージだと思います。全体を見渡したところでこのエリアをどんなふうにあるべきかというのをまさに全体で。それをやろうと思うと何十年と長い時間がかかりますので、そうすると資料4で書いてあるような形、皆さんがおっしゃったのは多分こういうイメージなのでこれはこれで煮詰めながら、当面短期的に何かできることはないかというのを議論したほうがいいのかと思います。長いスパンの話はもちろん大事なので、意識を今みたいに出しながらやっていければと思います。

●牛島座長

ありがとうございます。どちらかというと長いスパンのこのエリアのところで、今少し話があったところですけども、もう1回現実的にちょっと近場でということで具体的に何かあればというところで、鍋島委員さんいかがでしょうか。

●鍋島委員

あまり勝手なことを言ったらいけないのかもしれないのですが、事務方で準備をいただいた徴古館の上からの塗り分けてある図(資料5)を上から漠然と見ていただくと分かりますけれども、ちょっとわがままな話をいたします。徴古館を掘り起こして再始動して、地域も多少お認めをいただいて、佐賀市さんと徴古館を活用していこうじゃないかというような話になったときに、当然、周りをきれいにしたい、きれいになったらいいよねと。その徴古館の周りで未だにいじっていないところというのが三つのセクションに分けてあって、このすべてをきれいにしたいわけではないのかもしれないけれども、財団としては、松原マーケットがびっしり詰まっていたところを少しずつ片づけて現在に至るまで30年ぐら

いかな。松原マーケットが戦後よくこれだけ生き残ったなど、先ほどもお話がありましたけど、ああいうものにもそれなりの魅力がある。全体を見ていただくと、徴古館の後ろ（北）の片側を県が持っておいでになって、一種楔のように刺さっちゃっている土地、この土地自体にも所以があって、もうこれは釈迦に説法ですから繰り返しませんけれども、何とかならないかなという思いを持っていたのは私だけではないということがこの数年の中で共有事項になってきて。県有地というのは、佐賀県民、佐賀市だけではなくて県民皆さんの土地ということに法制上なっておりますから、ああしたい、こうしたいというわがままを私の方から言える立場では全然ないけれど、この状況を解きほぐしていくのには一定の知恵と皆さんの合意っていうのは当然必要であろう。そういう合意というものはある意味、大義名分ってやつだったと思うのですけれども、その辺りどう構築していったらいいのかなあ、こういうところからスタートして今日は県の方が2人、お立場のある方がおいでになっておられますけれど、前へ進める方法、もしくはその道筋というものはあるものなのか、ないものなのかというのは非常に興味があるところではございます。

●牛島座長

何かあればよろしくお願いします。

●元村委員

県の土地ということで、総務部で所管しているわけですがけれども今現実には、県としてこれをどう使うというアイデアというのは、計画があるわけでは今のところないので、これからこのまちづくりの中で、佐賀市さんとか懇話会も色々含めていろんな計画が出てきたときに、やっぱり県としてここはやっぱりそういうことで使っていこうというコンセンサスがとればしっかり御活用いただけるような形にはできるのではないかと思います。特にここは何もいじくれないよという土地ではないです、ということですかね。先ほどいろいろ議論を聞いていたけれど、ちょっと気になったのが、この黄色エリアということで佐嘉神社さんの駐車場のところは入ってない？入っていますか？

●佐野委員

一部、北側が入っています。

●元村委員

南側は入っていない？

●佐野委員

入ってないです。

●元村委員

勝手な僕のイメージで申し訳ないですけど、何となく南側からもフェンスがあって囲まれた空間になっている駐車場のところとか、それと、回遊するという意味で何かフェンスがあるのですか？

●佐野委員

フェンスはないと思います。境の塀がある。

●元村委員

回遊ということを考えると、ここの駐車場も含めて何かやっていくと佐嘉神社がよく見えて回遊もできるような気もしますし、ここで区切られている感じもしたものですから、そういうことも含めて何か考えてもいいのではないかなって思いました。

●牛島座長

ありがとうございます。コンセンサスがあれば、要はこの利活用がポイントだと思いますけども、それでの理解があれば色々考える余地があるというふうに感じました。どうでしょうか、先ほどからの話で、この松原エリアそしてこの松原公園での今までの歴史的な価値、意義、重松さんの意見の中で出ました、あるものを活かしてしたほうがいいですよということ。そして中尾先生も言われた若い人が集まるというようなところ、色々意見も出されたものをつなぎ合わせていったら、次の形、具体的なこういったものが欲しいとか、こういったものがあると人が集まってくるのではなかろうか、そして隣合わせたところでの開発といいますか整備計画を含めて進んでいるところだと思うけれども、その辺のところもあわせて白井委員さんないでしょうか。

●白井委員

色々な御意見を聞きながら思いましたが、資料5の話でいきますと、これは平成21年くらいに取りあえずのイメージで作ったものだと思いますが、少なくとも言えることは、松原マーケットのエリアというところで神社側からのアプローチもできるし、徴古館側からもアプローチができる、駐車場は駐車場としてあっていいと思うけど、神社でお参りをしたお客さんが東から西であれ、西から東であれ行き来できるようにするとそれだけでも、このエリアに特殊な何か奇抜なものを造らなくとも、お饅頭屋さんがあって、両方からお饅頭買って帰ろうかと言えるような、回遊という意味では、そんなふうになればそれだけでも十分いいのかな。だんだんそういったところから始まっていくのかなと思いました。将来的なイメージ、小規模なイメージだけど皆で共有しながらこのエリアで、ここをどうしていこうかということを考えていければ有難いかなと思います。いずれにしても市は取り組もうとされていることについて、市として出来ることをやっていきたいと思う。借地公園にしたのも一つの方法ですし、他にも Park PFI とか新しい取り組みの仕方もありますので、どれが一番いいのか、皆さんから出てきたアイデアの中で出てきたものをどう形にしていこうか考えていきたい。

●牛島座長

ありがとうございます。回遊というふうなところが一つのまた着眼点なると思います。先ほど中尾委員さんのほうからありましたが動線ですね。そして先ほどの元村委員さんの堀といいますか、堀が結局のところその妨げになっているというふうな部分は、一つのポイントじゃなかろうかという感じがしました。懇話会が始まる前に、富田さんに聞いたことがあるのですが、鍋島直正公の銅像がここにあったという話ですが、何でここにあったんでしょうかと。先ほどの資料6で非常にわかりやすく大正から平成にかけての鍋島家の関係から言ったときのちょうどそのあたりで経緯があって、それは理由があると思うんですね。佐

野委員さんからもお聞きしたところでは佐嘉神社は昭和天皇からの御命でそして、この土地の人が佐賀の人がこの場所にぜひともお願いしたいと言ってというふうなところ。だからこの場所というところが非常に大事だと思いますし、先ほどの回遊、オープンにということと新しい動きをつくり出す、次の世代に向けてというふうなところとか、様々な着眼点が出てきたと思いますがその辺りで具体的に例えばこんなことというのあれば、意見を言っていたきたい。感じたことがあればと思っていますが、どなたか何かないでしょうか。

●田中委員

先ほど、昔の佐嘉神社を造ったときのアルバムに写真とか色々載ってましたので見るとわかるかもしれませんが、古川松根の銅像と直正公の銅像があって銅像園という形で集まれる空間があったのでしょうか。それがどんな変遷であったかひも解くとイメージが見えるかもしれません。

●牛島座長

ありがとうございます。きっと造ったからには理由があったはずですよ、この場所という。今は直正公の銅像は本丸のところにありますが、それも当然理由があるわけですね。

●田中委員

直正公銅像再建検討委員会も参加しましたが、その時も元の場所に造るという意見がかなり強かったですね。ほとんど造るべきだという意見がかなり強かったけど、今こういう状態の中で、なかなか元には戻せないということで今の場所に造った経過が残っていると思う。

●牛島座長

要はそういう経緯と今あるもの、そしてこれからということで、皆さんのいろいろな意見が出てきたと思いますが、松原公園のところをよりこんなふうにしたらとか、あるいはよりこのコンセプト、この考え方を形にできるようにしたほうがというふうな部分を御意見がいただければと思います。

●鍋島委員

オリジナルの銅像をどうして造ろうかと思ったのか、という本当の起点は存じあげないけれど、何度か造ろうとしている明治の終わりから。なかなかうまくいかない時代背景等々でそれがやっとうまくいって銅像がつくられる。そのあとに佐嘉神社が創建されるという順番です。佐嘉神社が別格官幣社になるときに我々部外者にはよく分かりにくいのですが、それぞれの社格でどのぐらいの敷地を持ちなさいみたいな話がありました。もう一つは、御墓所の傍に造りなさいと、そういう指示が宮内庁なのかな。直接的には宮内庁なんじゃないかと思いますが、そういうところからきて、大和町のほうに佐嘉神社を造りなさい。そこに恐らく想像ですけども、先ほど宮司のほうからお話があった、既に松原神社というのがあってそこに、おいでになると。そこは直正公以前も方もお祀りされている。もう一つは、何かの中に、風光明媚な松原に銅像を建てたというくだりを見た記憶がある。そういう中で、前の宮司も一生懸命おっしゃっておられたけども、当時の佐賀の皆さんが大変な運動をして、現在の場所に造った。それなりの思いがあったのだと思う。当時の関係者の皆さん

が、やっぱりここだっていう思い入れが、かなり強烈にあったということはもう事績から明白なのかなとは感じています。

●佐野委員

今言われましたように、おそらく松原神社があったというのが 1 番大きいのではないかと思います。戦前のものですが、県内の神社を紹介した佐賀県神社誌要という本には佐嘉神社は載っていません。こちらのほうには、田島神社の次に松原神社が載っているけども、それ見ましたらやはり明治 4 年になって当藩の藩民の強い要望により直正公がこちらに南殿をつくって、お祀りをされましたというふうになっております。ですからやっぱり直茂公がおられて、そこにぜひとも直正公もお祀りをしてほしいというお気持ちだったのだと思っている。そしてそこに直正公がおられるのだから、新しく神社を造るのであれば同じところに造ってもらいたいという気持ちがすごく強かったんじゃないか。それで銅像もこの近くに、そしておられる近くに、そして佐嘉神社も同じところにとということで今のような状態にあったのではないのかなとは想像します。

●田中委員

別格官幣社の基準があって、ある程度の社域の広さを求められているのですが、どうしても狭い外苑にとということでお濠をまたいで、今の駐車場の南の辺りから敷地ということで基準を満たしたってという話がある。それくらいの格が求められますよね。

●佐野委員

1 万坪必要です。

●牛島座長

何かありますか白井委員。今日の話は松原公園に絞ってということではありますが、それを実際に形づくっていく、今後パースを描いたりとか、検討するにあたっての考え方、そしてその前提としては、これまでの歴史と経緯と今ある佐嘉神社、そして徴古館と跡という形で弘道館跡とか銅像園跡だとか諸々のことが関わってくるだろうと思っております。さらに言うならば、県有地のところは鍋島家から寄贈された図書館があったというふうなところも含めて、その経緯からいくと松原マーケットといいますかそういう中で生業もということで、今に続いているということだと思っています。ですからその辺のところでは今後形をより絞って描いていくことになると思いますが、白井委員さんどうぞ。

●白井委員

私が話していることかなと思うのですが、今、神社の歴史を披露いただきましたけれど、ゆかりある佐嘉神社さんの創建 100 周年が近々あるということで、記念のイベントとかそういったものも神社としてこれからお考えになると思う。その一つ一つが佐賀市にとってもそうですけど、観光的な要素が大きな意味合いをもって、改めてこのエリアは注目されていくのかなと思いますし、そういう考え方の中で鍋島家のことに思いをはせたりとか、そういう場所になっていくと思う。神社でも色々なイベントをされると思うが行政としてストレートにはできないこともあるかもしれないけれど、色々な面で行政も協力できることはあると思う。

●牛島座長

それではそろそろ時間も参りましたので意見交換についてはこれで終了したいというふうに思っております。今回松原公園、特に徴古館周辺というふうなところの整備ということで、前回と違う形でのお話を皆さんにさせていただいたところです。この皆さんからの御意見、着眼点、キーワード、もろもろのところを踏まえまして、次回以降により具体的に何らかの形を提示しつつ、最終的には、市民・県民にとっての松原エリアの価値を認識していただき、そして形にできるようにしていきたいというふうに考えます。エリア全体の将来像として目に見える形を最終的には提示できるような方向に持っていきたいと思っておりますので、次回以降もよろしくお願ひしたいと思ひます。進行を事務局のほうにお返ししたいと思ひます。

●事務局

牛島座長、どうもありがとうございました。今回は非常に活発な御議論ありがとうございました。色々多岐にわたる御意見をちょうだいしたと率直に感じておりますし、大変うれしくも思っております。事務局のほうで、何らかの形で整理をして次回の懇話会につながるような形でまたしていきたいと、準備をしていきたいというふうに思っております。次回、また日程調整をした上で開催をしたいと思ひますけれども、少し具体的な、もう少し踏み込んだ御意見とか、そういったものもお聞かせ願えれば非常にありがたいかなというふうに思っておりますので、何か委員の皆様方、お時間が空いたときにでも、時々考えておいていただければと思ひているところでございます。それでは本日の懇話会については、これで終了したいと思ひます。長時間にわたりどうもありがとうございました。